

【専門分野】

科目名	成人看護援助論V (看護過程演習： 急性期回復期・慢性期)	講師名	専任教員 A (12) 専任教員 B (18)	学 年	2	履 修 期	第1学期		
単 位	1単位								
時間数	30時間								
講師実務経験	看護師としての臨床経験あり。								
授業概要	成人期にある対象の急性回復期、慢性期の事例を通して、対象の理解及び看護の必要性について理解する。また、演習を通してこれまでの学習を統合し、問題解決能力と臨床判断能力を培い、臨地実習で適用できることをねらいとする。								
授業科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 看護過程の展開を通して、全身麻酔で手術を受ける胃がん患者の術前評価、術後合併症リスクをアセスメントし、合併症予防に必要な看護を導くプロセスが理解できる。 看護過程の展開を通して、慢性期にある肝硬変患者の身体的・精神的・社会的側面をアセスメントし、患者に必要な看護を導くプロセスが理解できる。 								
授業計画	<p>I. 慢性期にある患者の看護過程：倦怠感、腹水、黄疸のある肝硬変患者</p> <p>1～4回：肝硬変患者の身体的影響に関するアセスメントと必要な看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 肝硬変の病態と症状の関連（倦怠感、腹水、黄疸） 肝硬変に伴う検査値への影響と栄養状態の評価 消化器症状のある肝硬変患者に必要な看護 <p>5～6回：肝硬変患者の病期のアセスメントと必要な看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 「病みの軌跡」を用いた慢性の経過をたどる患者の病期と必要な看護 <p>II. 急性回復期にある患者の看護過程：全身麻酔で手術を受ける胃がん患者</p> <p>7～8回：胃がん患者の術前アセスメントと術前に必要な看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 全身麻酔や術式から予測される術後合併症の判断 胃がんの病態と術前検査との関連から考える術後合併症のリスク 胃がん患者の術前に必要な看護 <p>9～12回：胃がん患者の術後アセスメントと術後に必要な看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 手術療法と術後合併症との関連（神経障害、皮膚障害など） 術中および術後の情報から考える術後合併症の判断と必要な看護 (Moore の回復過程)：呼吸器・循環器・消化器合併症のリスク、疼痛 <p>13～15回：胃がん患者の回復期のアセスメントと必要な看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 胃切除に伴う機能的変化とダンピング症候群との関連と必要な看護 					講義・グループワーク	講義・グループワーク	講義・グループワーク	講義・グループワーク
評価方法	演習記録、出席状況（I：40%、II：60%）								
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器, 医学書院. 石川ふみよ・高谷真由美：疾患別看護過程の展開, 第6版, 学研. 系統看護学講座専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I, 医学書院. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院. 								
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 江川隆子：江川隆子のかみくだき看護診断改訂8版, 日総研. 阿部俊子・山本則子：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版, 中央法規. 阿部俊子：改訂版病態関連図が書ける観察・アセスメントガイド, 照林社. 江川隆子：これなら使える看護診断 厳選 NANDA-看護診断 83, 医学書院. NANDA-I 看護診断 2018-2020, 医学書院. 								
学生へのメッセージ	事例演習を通して、既習学習を統合しながら、対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、症状の変化に気づき、対象に必要な看護を判断するプロセスを主体的に学習していきましょう。 【関連科目】解剖生理学 I～IV、病理学 I～IV、臨床治療論、薬理学、臨床判断 I・II、共通基本技術IV、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護援助論 I・III								